

「めざす10年後の将来都市像」についてのご意見募集結果

平成25年8月12日
第7回行政審議会 資料

「めざす10年後の将来都市像」の候補の内容		得票数	選んだ理由	年齢	地区名
候補 1	『笑顔あふれる 元気なまち えべつ』 江別市が持つ特性や優位性を最大限に活かし、人との情報が行き交うまちの賑わいを創出して、まち全体を元気にしていきます。また、第5次江別市総合計画で進めてきた将来都市像の「人が輝く共生のまち」の「人中心」の地域社会へという方向性を守りながら、市民一人ひとりがいきいきと輝き、幸せの笑顔に満ちた江別市をつくりまします。	2	江別市は「農業が中心の街」という特性を持つ。従って農を基本に大学、その他の研究機関との連携を強化。新産業の創出。企業の誘致を継続的に行なう。人口増でなければ市の活気・発展は期待出来ない。	80歳代	野幌地区
			—	30歳代	大麻地区
候補 2	『みんなでつくる 未来につながるまち えべつ』 これからの人口減少時代にあっても、誰もが暮らしやすいまちづくり、住んでみたいと思える魅力あるまちづくりを将来にわたって続けていけるよう、江別市に関わるすべての人や団体が、みんなで協力して江別市の未来をつくっていきます。	2	人口減少という新たな試練に向かって挑戦しようとする意気込みを感じる。市民の位置づけを明確に。	70歳代	大麻地区
			協働・共生という考えを明確に表していると思うから。	50歳代	江別地区
候補 3	『ゆうゆうと人・都市・自然が調和するまち えべつ』 誰もがゆったりと快適に暮らせる、都市と自然が調和した魅力的なまちづくりを、悠々と流れる石狩川のように、将来にわたっていつまでも続けられるよう、様々な人や団体が協働（調和）して江別市をつくっていきます。	3	—	70歳代	野幌地区
			私は、従前から江別のキャッチフレーズは『緑豊かな田園文化都市』が最もふさわしいと考えています。それは、素案中にもある通り、江別市は野幌原始林や石狩川のような自然（緑）に恵まれ、平坦な地形にゆったりとした産業（農業主体）が展開され、しかも大学や研究機関が多いという都市特性から発想したものです。そして、静かな住宅都市（札幌のベッドタウン）であって欲しいと思っています。	60歳代	野幌地区
			住民は自然の一部。自然を大切にし、調和することが大切と思います。	70歳代	野幌地区
候補 4	『笑顔いっぱい いつまでも魅力あるまち えべつ』 社会情勢がいかにも変わっても、誰もが暮らしやすさや豊かさを実感できるよう、市民と行政などが協働することを基本に、いつまでも魅力と活力を持ち続けるような江別市のまちづくりを進めていきます。	1	江別市に住んで良かったと言う、市民と行政が本当に一体化になって江別の特色を何か一つ、二つかかげてずっと継続して頂きたいと思っています。（特に福祉に関して）	60歳代	江別地区
候補 5	『一人ひとりの生きがいを育むまち えべつ』 「人」と「もの」と「情報」が相互に結び付き合い、まち全体が活気あふれるために、子どもから高齢者までの誰もが、まちづくりの主人公となって、一人ひとりが持っている知識や能力を、地域社会の中で存分に発揮して、「生きがい」を日々感じながら、楽しく元気に暮らすことができる江別市をめざします。	1	「市民」を「子供から高齢者」ととらえている。	60歳代	江別地区